2019 年 12 月 16 日

文部科学大臣　萩生田光一殿

大学入学共通テスト「記述式問題」導入中止を求める要請書

立憲民主党　参議院議員　水岡俊一
国民民主党　衆議院議員　城井　崇
日本共産党　衆議院議員　畑野君枝
社会保障を立て直す国民会議　衆議院議員　重徳和彦
社会民主党　衆議院議員　吉川　元

文部科学省、大学入試センターは高大接続改革の一環として、２０２０年度から実施する大学入学共通テストにおいて国語、数学に記述式問題を導入することとしています。

わたしたちは、これまで、文部科学委員会や野党合同ヒアリング等で、記述式問題は採点者の大半が大学生・院生等のアルバイトで占められるなど質の確保が難しいこと、採点者によって採点のブレが生じること、採点ミスが不可避であること、自己採点結果と実際の試験結果の不一致が生じ、二段階選抜に進めなくなる可能性や希望する大学よりも確実に第一段階選抜の合格が見込める大学への出願に偏る可能性があること、採点を請け負う事業者の利益相反などの多くの問題点を指摘し、記述式問題導入中止を求めてきました。さらに 11 月 15 日に、記述式試験の導入中止を内容とする「独立行政法人大学入試センター法の一部を改正する法律案」を衆議院に共同提出しました。

そのような中で、与党の公明党からは来年度からの実施を見送るよう求める提言書が、自民党の文部科学部会からは見直しを求める決議が出される事態となり、文部科学省として延期を検討していると報じられる事態となっています。

その一方で、野党合同ヒアリングに出席した文部科学省の担当者は、「文部科学省としては、記述式問題に関してどのような改善が可能であるか、大学入試センターや採点業者とも連携しつつ様々な方策について検討し、課題解消に向けて努力しているところでもあり、受験生のために、できるだけ早く不安を払拭できるよう課題への対応策について、年内に方針を固めていきたいと考えています」と従来通りの回答を繰り返しています。

しかしながら、これまでの野党合同ヒアリング等における文部科学省、大学入試センターの回答は対策の多くを事業者に委ねており、受験生が安心して入試に臨める体制が整えられるとは到底考えられません。

そもそも、記述式問題の導入により、思考力、判断力、表現力を測ることを目的としていますが、数学においては論述式ではなく空所補充問題でマークシート方式と測れる能力に差異はありません。国語においても採点のブレを無くすことを優先すればするほど、解答に条件が付けられ、測れる能力が限定されマークシート方式の問題との違いが無くなり、あえて採点ミスが生じるなどのリスクがある記述式問題を導入するメリットは全くないと考えます。

また、来年度の実施が延期となっても、高校一年生以降の子ども達は自分が受験する時にはどうなるのだろうかという不安を持ち続けることになります。

このような状況を踏まえ、教育現場におけるこれ以上の混乱を避けるため、大学入学共通テストにおける記述式問題の導入は、延期にとどまらず、直ちに中止することを要請します。